

我が家の愛する長男を失って

～たった2歳6ヶ月で旅立った輝樹^{みつき}～

A

愛する輝樹^{みつき}は、平成15年7月6日、2842グラムで、我が家の第2子長男として生まれた。2つ上の姉の後をいつもついて歩き、くったくない笑顔と、誰にでも愛嬌をふりまき、「みっくん」とみんなから呼ばれ、愛くるしさが本当に自慢な息子だった。

第3子の次女を里帰り出産し、2ヶ月、実家の保育園に入所し、残り1ヶ月を自宅に戻り親子5人で新しい生活になれるために地元の保育園に通い始めた。言葉はあまりでなかったが、自慢の愛嬌と人なつっこさで直ぐに慣れた。

入所5日目の平成18年1月9日は休日、珍しく冬にしては暖かく、成人式の週末と重なり何となく自宅近くは賑わっていた。

家の中で、生後1ヶ月半の次女が寝ていたので、私は持ち帰った荷物や部屋の整理をするために、主人に子ども二人を外で遊ばせるように頼んだ。5分もしないうちに3人で鬼ごっこや、かくれんぼをする声が自宅前に響きわたり、その声を聞きながら、新しい家族5人の生活に幸せを感じていた。

しばらく遊び、主人が輝樹をおしっこだと一旦家に連れて入ったので、私がトイレに連れて行き、お片づけのためにもう一度外に出した。

そろそろお昼時だなあと思って私は時間を見た。午前11時6分。外へ出

て、1分経つか経たないかで、外で主人が聞いたことのない尋常なる叫び声を聞き、玄関から見ると、家の前の主人が血だらけの輝樹を抱きかかえ、私はパニック状態で震える手で救急車を呼んだ。救急車が来るまで、主人が息子の口から流れる血を吐き出したりするが、すでに輝樹は反応もない状態だった。

救急車が到着し、主人は一緒に乗り込み、近くの大きな救急病院に運ばれた。私は寝ている次女を抱きかかえ、長女と一緒に祈り、主人からの連絡を待ったが、いてもたってもいられず、二人を連れて病院へ走った。

病院へ着くと、うなだれている主人と、救急室の診察台の上に寝かされた輝樹に心臓マッサージをしながら、時間を何度も見ながら、処置をしているがもうダメそうな処置だったのが分かった。先生方に二人が呼ばれ、脳のレントゲンを見ながら説明されたが、もう脳に亀裂が入り、手の施しようがないので、諦めるように言われた。頭蓋底骨折だった。

心臓マッサージを止められ、あっけなく旅立った。午後0時10分・・・。

2歳6ヶ月の短い生涯だった。

事故から私たち家族は初めて経験する一変する生活・・・。取り調べ、加害者立ち会いのもと実況見分（被害者側無）、地方検察庁出頭意見書陳情、書類送検。毎日が言葉にだせないくらい辛い日々。テレビの中の世界を経験する。

事故は結局、自宅前の加害者が、加害者家族を降ろすために一旦停止した

隙に息子が車の前方に居て、死角に入り見えずに轢いたらしく、安全確認を怠ったために起きた事故。輝樹は虫ケラのように二度轢かれたらしく、後で手に入れた調書に記入されていた。

事故後、多くの人に傷つけられ、生後間もない次女を抱えて、精神不安定の日々の中、毎日の生活をやっとなすのが精一杯だった。

罰金50万、私道駐車場内ということで、300日足らずの免停。(死亡事故は最低1年にもかかわらず)略式起訴で加害者は許された。

被害者家族の心も知らず、目の前に住み続け、半年間苦しめ続け、新車購入までして半年後、示談も待たず、名古屋に転居していった加害者家族。逃げて抹消するのかと思えた。

私たち家族は、息子の1年法要を機に、紛争センターを介して示談。息子、私たち家族にあてた手紙1通を見て呆れ、もう関わりたくない気持ちの一心で、新しい生活を4人で選んだ。

あれから6年半、加害者から何の連絡もなく平穏な日々と新しく生まれた次男が3歳となり、時々受けるカウンセリングと、生命のメッセージ展活動、仕事、子育て、ボランティアで日々を忙しくこなしている。

憎しみをもたず、そのエネルギーを、生命の大切さを永代伝える担い手として学校などで授業等に輝樹の残した紙芝居、手記を語る活動を現在ではしている。生命のメッセンジャー輝樹は、日本全国を旅して永遠にメッセージを送り続けている。そんな息子輝樹を誇りに思う。これからも母の体を介して

いろんな活動をしていこう・・・。私に生きる使命を与えてくれた輝樹。ありがとう。7年を迎える時にはきっとまた前進しているよ。

母より